



4/17 (土) プロフェッショナルな歌と踊りの世界に引き込む

浦添市立図書館、在沖米国総領事館主催によるハドソン・シャッドのコンサートが市男女共同参画ハーモニーセンターで行われました。ハドソン・シャッドは男性ヴォーカル・アンサンブルで、クラシックからポピュラーソングまで幅広いレパートリーを持ち、1999年のドイツ・ケルンG8サミット開催時にも出演した実力派グループです。公演ではコミカルな踊りや口笛を交えながら、「モナリザ」「虹の彼方に」など多くの曲が披露され、彼ら独特のパフォーマンスの世界に魅了された会場からは1曲ごとに大きな拍手が起こりました。

5/9 (日) 5/14 (金) 学ぶ喜びと地域貢献への期待を胸に

浦添市独自の学び舎として設立された「てだこ市民大学」と「てだこ学園大学院」の入学式が行われました。

5月9日に市社会福祉センターで行なわれたてだこ市民大学の入学式では、学習意欲の高い44名が儀間光男学長から入学を許可されました。てだこ市民大学は、本市の『夢・まち・人』づくりの一環として、市民の高い学習ニーズへの対応と自己実現を支援するとともに、その学習の成果を地域社会等に還元できる人材の育成を目的としています。学長式辞では「知識・人格共に備わった地域のキーパーソンになるよう期待します」とあり、各学部の新入生代表あいさつでは「身の引き締まる思いです」「11万市民が支え合う浦添市へ貢献したい」「在学中もボランティアを行いながら市に貢献したい」と、新しい学校生活への希望が述べられました。

また、23回目となる「てだこ学園大学院」の入学式は5月14日に市中央公民館で行なわれました。地域の高齢者が仲間づくりの輪を広げながら、新しい教育を身につけ充実した生活を創造するという大学院設置の主旨の下、平均年齢67歳の50名が新たに始まる学校生活への期待を胸に入学しました。入学院生を代表して永山邦夫さんは「講座はどれも貴重で役立つものだと思う。新鮮な気持ちで学んでいきたい」と、これからの抱負を述べました。



5/18 (火) 明るく住みよい社会を築き一人でも多く笑顔になれるように

赤十字運動月間となる5月に合わせて、浦添市赤十字奉仕団の社資募集出発式が市役所中庭で行われました。奉仕団は、街頭募金や企業訪問などにより赤十字の救護支援に必要な資金（社資）を集める活動や献血活動、保健活動などを行っています。

奉仕団の山川委員長は「奉仕団の活動は、苦しんでいる人たちを助けたいという気持ちを実践するいい機会です。社資募集が赤十字社を支えていることに誇りを持って頑張っていきましょう」と、あいさつしました。



4/22 (木) ワクワクいっぱいの掲揚式♪

児童福祉週間の一環として、こいのぼり掲揚式が市役所玄関前広場で行われ、市内の保育園児、親子ら約700名が参加しました。式では、子ども達の元気に歌う「こいのぼり」に合わせて、大小様々な色の鯉が市庁舎をまるで滝のように登っていき、すべての鯉が上がったところで会場から大きな歓声が沸きました。

掲揚の後に行われた児童センター厚生員によるアトラクションでは、かわいらしい着ぐるみでのダンスや大人気のワラビンショーが行われ、子ども達の大満足な笑顔にあふれた掲揚式となりました。



4/26 (月) 模範となる市民憲章実践活動を称えて

第28回浦添市民憲章推進協議会総会において市民憲章実践者の表彰が行われました。この表彰は、市民憲章が目標とする7つの行為内容「自然愛、豊かな人間愛、遵法、公德心、勤労、健康、連帯感」のそれぞれについて、被表彰者の積極的な推進・実践活動を称えたもので、今回は個人25人と7団体が表彰されました。

比嘉勝昭会長は「受賞される皆様方のように、多くの市民が熱心にボランティアとして活動することによって、浦添市のよさを更に高め、連携意識をはぐくんできてくことが大きな力になると期待します」と、あいさつしました。



4/25 (日) 県内移設にNo!

読谷村運動広場で開催された「米軍普天間飛行場の早期閉鎖・返還と、県内移設に反対し国外・県外移設を求める県民大会」に、浦添市からも多くの市民が参加し、普天間基地の県内移設に反対の声を上げました。本市では、儀間市長を実行委員長とする実行委員会を立ち上げ、ビラ配布やラジオ放送による参加を呼びかけるとともに、送迎用バスの準備などを行いました。大会に参加した市民からは「子や孫に基地を残したくない思いで参加した」「今回の大会は県民が心をつにしたので多くの人が集まったと思う」などの感想がありました。